

C-51 長着のえり付けについて(オ3報) — 人体と作図との関連性 —

岡山就実短大 の小川智野

すみれ女短大 阪本弘子

目的 和服製作については、従来からの仕立方法、標準寸法がらって、現在もそれに基づいて製作されていることが多いのが現状である。しかし最近の体位向上に伴って、学生の体格が変化している今日ではこのような画一的な方法、標準寸法通りの指導では、個人的に不適合で不合理な点が認められる。そこで身体計測を基にして、各個人の体格に合った和服の製作について考察を加えることにした。今回は身体計測と、大裁女単長着のえり付け線の作図中にとり入れて、その関連性について検討したので報告する。

方法 1) 被検者の選定に当っては、学生230名中視覚的にみて、標準体、瘦身体、肥満体、に分け、更にシルエッター観察によつて、肩の厚み、肩の位置(前肩、後肩、正常位)肩傾斜角度、などから7種類14名を選び、高マルチン式計測法によつて計測し、それらの中から代表的な標準体、瘦身体、肥満体と各1名ずつ選んだ。

2) 作図法を設定し、上記3種類のタイプ別個人身体計測値を、衿付け線に入れて作図を行った。身体計測に当ってはJIS寸法を参考とし、これと併わせて研究を試みた。

3) 製図上、抱巾の設定については、えり付け線できめる場合、(前傾型)と、脇線できめる(脇傾型)の2種類とした。

結果 標準体、瘦身体、肥満体、の3種について作図をした結果、従来行っていた方法(普通型)と今回の作図法によるものと(基本型)について比較したか次の相違点とみた。

- 1) 肥満体の場合は、えり肩明、くりこし、衿下り、えり付け線の傾斜に差があった。
- 2) 普通体、瘦身体、の場合についても、差が認められた。